

DEQX の役割と使い方

DEQX は再生システムの要であるスピーカー（機械振動系）と部屋（音響伝達系）が抱える問題点を音響測定の結果を基にデジタル信号処理技術で解決する画期的な製品です。

■ DEQX で出来ること

- ・ 機械振動系であるスピーカーの本質的な欠点をデジタル技術で補正して最適化する
- ・ スピーカーからの再生音を歪める部屋の音響特性を補正して音の透明性を確保する
- ・ リニアフェイズ方式のチャンネルデバイダで 3Way までのマルチアンプ方式が可能
- ・ 好みの音色で再生するモードの選択や入力選択、音量調整ができるプリアンプ機能

■ DEQX を使うときの注意点

<基本動作>

- ・ DEQX の出力端子は再生システムの構成（Configuration）によって役割が変化する
- ・ このためシステムの構成（フルレンジ～3 Way）を指定するまで出力信号は出ない
- ・ 設定はスピーカー特性の最適化と部屋の影響を取り除く作業との二段階で実施する
- ・ DEQX 内部の動作を制御するソフト（Firmware）は機種（3 種類）によって異なる
- ・ DEQX 内部には必要なデータのみが保存され、それ以外は PC のファイルに保存
- ・ 部屋の補正は最大 10 個のパラメトリック EQ を駆使して再生音を透明化する設定
- ・ この部屋の補正データは本体に直接保存されるため PC にダウンロードして保存

<測定について>

- ・ 測定結果を元に DEQX が補正データを生成しますのでマイクの位置は特に重要
- ・ 測定結果が何のどのような状態を表示しているのか、正確に認識することが大切
- ・ 意図的にマイク位置を変更して特性がどう変化するかを探ることは上達への近道
- ・ ユニットの直接音と壁の反射音の違いを観察し、直接音の量を増やすことが大切
- ・ 廉価版の測定マイク（ECM8000 や DMM-6）でも再生システムの調整は十分可能
- ・ 測定マイクは無指向性だが実際には指向性があるため測定対象に正対させて測定
- ・ 測定時の音響的な S/N（S=測定信号、N=部屋の雑音）の要求値について認識する